

特集2

IDEA WORLD FITNESS CONVENTION 2008 Report

～Inspire the World to Fitness の進化と真価～

ワールドフィットネスにふさわしいIDEAコンベンションが7月7日～12日、米国はネバダ州の一大観光都市、ラスベガスで開催されました。そのIDEAワールドコンベンションの様子を、IDEAに参加した古村誠さん（HN編集サポーター）と本誌（長谷川）との対談、岩井智子さん（NEXT編集長）によるレポートなどによってご紹介します。



ロブとレベッカのジョイントレッスンを終えて日本人参加者と。(後列右端：古村さん)



IDEAコンベンションの イメージリサーチ

国民性、フィットネス文化の背景に
映るイメージギャップ

フィットネス愛好者の代表的な存在
ファンフィット主宰、HN編集サポーター

古村 誠さん X

HN編集長

長谷川 勝重



古村 こんにちは。その節はいろいろお世話になりました。
長谷川 お疲れさまでした。こちらこそありがとうございます。今日はあの感動が薄れないうちに、お互い感じたことをざっくばらんなトークで交わしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

☆IDEAの第一印象

古村 長谷川さんは、IDEA初参加ですよ、私が質問するのは逆かも知れませんが、第一印象はいかがでしたか。

長谷川 JafaとIDEAは、インストラクターへの教育や啓蒙を行う団体という共通した立場にあります。コンベンションについては『World』を冠していることからわかるように、国際性を重視していることにインパクトを感じました。例えば、オープニングセレモニーでは、外国からの参加者を座席から立たせて、会場にいる全員が「ようこそ！」という気持ちを込めて拍手を送ってくれる演出があったの

です。自分が外国から来たことや、アメリカ人にとっては外国人が大勢参加していることを実感させることで、国際性をアピールしているわけです。また、入場の際にスティックを渡してDRUMS ALIVEの演奏者になってもらうなど、セレモニーを楽しむ工夫があちらこちらに見られました。日本のセレモニーでは、受賞者以外は傍観者的な存在になってしまっていますが、IDEAでは皆がワクワクして参加できる工夫があり、その点にとてもインパクトを感じたのです。

それから、アンジー・バンチが主宰する『カルチャーショック』というヒップホップグループによるチャリティワークショップが実施されました。これは1人10ドルの参加費を子どものフィットネスの研究費として寄付するためのクラスなのですが、キャリー・アンダーソンさんは娘さんと一緒に参加していて、とても楽しんでいるのです。そんな様子を見ていると、チャリティという社会貢献とエクササイズを楽しむことを一緒に行っているアメリカのフィットネスは、奥が深いと感じました。また、たくさんいる会場スタッフのほとんどがボランティアであることにも、IDEAの社会性が反映されているように思いました。

古村 国民性の違いと、それに伴うフィットネス愛好者が求めるもの、期待するものの違いがあるかもしれませんね。また、フィットネス業界の規模や成熟度の違いもあると思います。日本のフィットネス業界の規模はまだまだ小さいですよ。でも、それゆえに将来性があるともいえます。

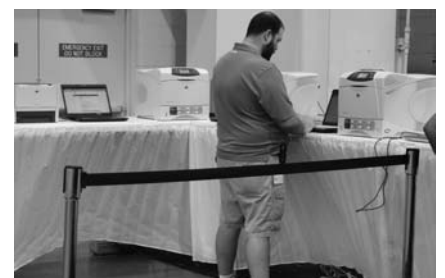
それから、私は米国でフィットネス以外のコンベンションに参加したことがあるのですが、コンベンションがビジネスとして確立されていることを強く感じていました。ビジネスとして成り立つからこそ、施設や運営サポートが充実しているのでしょうね。その面ではうらやましいです。



レジストレーションは名前別（アルファベット順）に受け付けられるので、とてもスムーズ。



受付時に渡されるバインダーには、受講できるクラスの登録証のほか、エキスポで使える商品券や割引券が添付されています。



エコは世界的な課題。IDEAでは今年から、必要なクラスの資料はバインダーに添付されているCD-ROMを使って自分でプリントします。

ボランティアについては人格教育でしっかり叩き込まれていることを強く感じます。そのほかにお気づきの点はありますか。

長谷川 仕事柄、どんなメディアが取材に来ているのか関心があったのですが、取材者の存在には全く気がつきませんでした。社会性がアピールされているイベントであっても、メディアの関心は低いのかと、妙な感じがしました。ただし、オープニングセレモニーはインターネットによってその模様が全世界に向けてリアルタイムに発信されていたので、メディアについては新たな概念やシステムが機能しているのかもしれません。

☆印象に残ったインストラクターやプログラム

長谷川 古村さんが今回一番印象に残ったプレゼンターはどなたですか。

古村 私にとって、今回のベストプレゼンターはレベッカ・スモールです。彼女の講義は、昨年3月に行われたJAFの関西フォーラムと、4月にシドニーで行われた『FILEX』というコンベンションでも受けていますが、講義の内容や質が大きく変わっているわけではないのに、彼女の存在感は全然違うんです。とても堂々としていたのですが、意外にもレベッカはIDEA初参加だったのですね。

彼女の1本目のステップの講義では、広い会場を200名以上の参加者が埋めていて、アメリカでも人気が高いことを感じました。それからロブ・グリック、彼はBOSUやGRAVITYなどツールを使ったプログラムのトッププレゼンターであると同時に、アメリカでフリースタイル系のエアロやステップを提供し続けている数少ないプレゼンターで、本当によく頑張っています。今回、ロブとレベッカのジョイントプログラムがありましたよね。レベッカが彼と組もうとするのもわかるような気がします。

長谷川 私も、レベッカの存在感は一回りも二回りも大きく

なったように感じました。ほかに印象に残ったプレゼンターはいらっしゃいましたか。

古村 日本では知られていない講師のクラスにもいくつか出ましたが、自分が受講した中では著名な講師のクラスのほうが良い内容を提供していたと感じました。一番楽しかった講座は、盛り上げ上手なスティーブ・ブーツのHi-Lowエアロの講座です。また、フリースタイルの講座として一番凝ったコリオグラフィを披露していたのは、同じく来日経験のあるヨアブ・アビダルのステップの講座です。とてもクリエイティブで楽しい講座だったと思います。

長谷川 私はパトリック・グドゥとマイロ・ラベルが印象に残りました。どちらもアメリカらしいダンス系のプレゼンテーションでしたね。ミンディ・ミルレアやジュリアン・アーニーもエキサイティングで、かつパワフルで良かったですね。プログラムについての印象はいかがですか。

古村 昨年からカーディオ系が戻ってきたように感じます。フリースタイル系も徐々に復権しているように思いました。国民性かもしれませんが、さまざまな器具を利用したトレーニング系のエクササイズは、器具の多様さと内容の充実さが目を引きました。また、日本ではプレコリオ系の新プログラムが百花繚乱の様相を呈していますが、IDEAコンベンションではZUMBAとDRUMS ALIVE以外はあまり見られなかったのが印象的でした。

☆受講者の違い

古村 初めて海外コンベンションに参加すると、受講者が途中で退室するのにビックリしますよね。長谷川さんはどう感じましたか。

長谷川 レクチャークラスでは飲み食いしながら受講したり、ワークショップでは寝転がって受講している人がいて、びっくりしました。国民性の違いを感じましたね。また遅刻者の存在はあまり感じなかったのですが、途中退室する人は



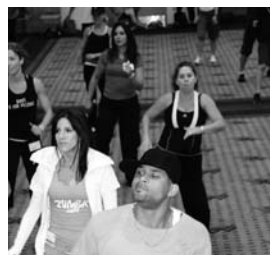
写真：IDEA提供

むか〜ロシアのジムで流行した『ベル』というウエイトを紹介したワークショップは満員。レジスタンストレーニングや体幹の回旋動作に使うのですが、ちょっとスリリング。



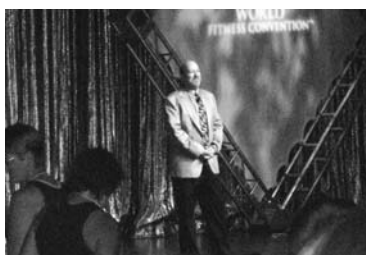
写真：IDEA提供

欧米でのバイクエクササイズの人気はとて高く、シュインとカイザーが講座を提供していました。音楽だけでなく大画面のモニターを活用したり、カラオケと融合したクラスも。



写真：IDEA提供

日本でもファンの多いマイロ・ラベル。動きがカッコイイだけでなく、指導もチョウマイ！ポイントをわかりやすく解説して、できた人にはすかさず「エクセレント！」と声を掛けます。ところで皆さんは、ファンクとヒップホップの違いをご存知ですか？



オープニングセレモニーでスピーチするIDEA会長のデビス氏。笑顔で軽快な話術はすぐに聴衆を惹き付けました。どことなく、世界に向けてしゃべっているように感じました。



クリエイティブで、緻密に計算されたプログラムはヨアブの真骨頂。指導にも磨きがかかり、参加者たちはヨアブのダンスエアロに魅了されていました。



今年の関西フォーラムでも大好評だったスティーブ・ブーツは、IDEAでも人気者。バレエで培ったダンサーとしての素養と、欧州のコンベンションで磨かれたコリオのセンスが光っていました。

けっこういますよね。レッスン中に足元に荷物を置いている参加者がいて、いつでも退出できるように仕度して受講している様子には首をひねりました。

古村 退室については、無言のブーイングの場合もあるでしょうが、必要なものが得られたら長居は無用という合理性によるケースもあると思います。退室者が多くても評価の高い講座がありますからね。ただ、コンベンション慣れしたプレゼンターはお楽しみを最後にもってきたりしますから、途中で退出しちゃうと、一番おいしいところを食べそびれてしまうことがけっこうあるのですよ。

長谷川 受講者は、楽しむため、学ぶため、新たな経験をするためというように、目的を明確にして臨んでいる人が多いように思いました。私が取材したクラスでは、赤ちゃんを抱いて受講している人がいて、赤ちゃんがむずがっても集中して受講していたり、周りはサーキットトレーニングで走り回っているのに、その真ん中でメモをとっている人がいました。自分のスタイルを貫いているといえる反面、個人主義的な行為ともいえますよね。

古村 それが当たり前な国ですから、やはり国民性の違いを感じますね。

☆エキスポ

長谷川 講座以外では、何か特徴的なことはありましたか。

古村 海外コンベンションでの楽しみの1つに『エキスポ』があります。注：エキスポとは、フィットネス関連業界の展示即売会場で、各種機器やインストラクター用CD/DVD、ウェアの販売、新プログラムの紹介などのブースが軒を連ねている。

国内未発売のレッスン用CDやウェア、ツールなどが購入できることもあります。いろいろなマシンに触れられたりプログラムのデモが見られることもよい刺激になります。海外コンベンションの魅力の1つにエキスポを挙げる方は多いですね。

長谷川 エキスポには、フィットネスに関するいろいろな商品が集まっていて活気がありましたね。私はジュースミキサーで、プロテイン飲料からミネストローネ、デザートなど何でも短時間で作って来場者に振る舞っているおじさんが印象に残っています。同行していた鶴見（JAFAR理事長）によると、巧みなトークで実演販売する名物おじさんです。二人で2品ずつもらって舌鼓を打ってきました。

☆IDEAコンベンション 参加への意義

長谷川 最後に、IDEAコンベンションに参加する意義を古村さんはどのようにお考えですか。

古村 海外の一流プレゼンターは、プレゼンテーションスキルが素晴らしいですね。言葉やボディを使ったプレゼンテーションだけでなく、曲の使い方なども上手いです。プレゼンテーションはどちらかという日本人が苦手な分野ですが、だからこそ伸ばすことができる部分だと思います。また、彼らは自分のジャンルをしっかりと確立していて、講義にもそれがよく表れています。JAFARフォーラムなどで、日本にいても外国の一流のプレゼンターの講義を受ける機会はありますが、IDEAを含め、メジャーな海外コンベンションではたくさんの海外プレゼンターが一堂に会します。たくさんの一流プレゼンターの講義を受け続けることはとても刺激的なことで、さまざまなアイデアや技能を収穫できます。そういう意味で、IDEAには参加する価値があります。

また、JAFARフォーラムと共通することですが、学ぶときはしっかり学び、あとはしっかり楽しむことも大切だと思います。参加者の楽しみを忘れないことが、指導者を続ける潤滑油だと思います。そういうことも、IDEAを通じて感じられるメリットだと思います。

長谷川 私もそう思います。どうもありがとうございました。



写真：IDEA提供
フォームローラーとピラティス、そしてバランストレーニングを組み合わせたクラスは満員。プログラムのクオリティがとても高く、参加者は「これはイイ」と感心しきりでした。



Drums Aliveの醍醐味は、全員が一体となってリズムを刻むことで感じるトランス感覚にあります。ツインドラムの生演奏は、より大きな低音を響かせてトランス感覚を高めています。



IDEAの関心事の1つにアクアプログラムがありました。環境・内容ともにイマイチ。JAFAR AQUAをはじめとして、日本のアクアシーンの成長ぶりを感じた次第です。



治面地順子さんによる『アルファベクス』は、意識を高めて行う筋コンディショニングと呼吸法、そしてメディテーションによる心身のリラックスを融合させたプログラムで、高い関心を集めていました。



人を担いで走るようなハードなサーキットトレーニングの講座がいくつかあり盛況でした。アメリカにはアリーナを設備したフィットネスクラブがたくさんあり、ポピュラーなプログラムのようなです。



ボールエクササイズの人気は高く、プログラムのバリエーションも豊富。指導者だけでなく、参加者たちもボールエクササイズの特長を理解していることが人気を支えているようです。



いろいろな講座で、受講者同士でペアを組ませたり、手を合わせるなどスキンシップやコミュニケーションを図るシーンが見られました。人とのふれあいも、フィットネスの大切な要素です。



親子で行うサーキットトレーニングのワークショップには、赤ちゃんを連れた参加者も。ちょっと早いのは…なんて心配しましたが、ママは赤ちゃんを抱きながらずっとメモをとっていました。



IDEAコンベンション回顧録

IDEAの社会性と
指導者のモチベーションづくり

HN編集長 長谷川 勝重

フィットネス業界に身を置いて約20年、IDEAコンベンションは私にとって行かなければならない場所としてずっと脳裏にありました。世界の選りすぐりの指導者とプログラムが集うこの機会を、本誌記者としてどのようなテーマを持って臨んだらよいのか思案しましたが、シンプルに興味のあるプログラムを取材すればよいと思い至り、肩の力を抜いて臨んでみました。しかし、IDEAコンベンションの取材は、いい意味でショッキングな出来事として、今もその記憶は根強く残っています。

古村さんとの対談でも触れましたが、IDEAコンベンションの2日目(7/9)に開催されたオープニングセレモニーは特筆すべき内容でした。一緒に参加した鶴見理事長が要所を通訳してくれたことで、IDEAコンベンションに関するさまざまなことを知ることができました。

スピーチに立ったピーター・デビス会長によると、今回のIDEAコンベンションの総講座数は309で、参加者数は約3,000人。そのうち外国(60カ国)からの参加者は約400人とのこと。IDEAではフィットネスに関する研究を助成するために募金活動を行っていて、この1年間で寄付した金額は日本円で約1,500万円。「この基金は、フィットネスを指導する皆さんの善意によるものです」と感謝を述べ、「このセレモニーの様子は、インターネットによって世界に同時配信されています」と述べると、会場はワッと湧きました。

ピーター会長のあとには、妻であるキャシー・デビス会長がスピーチに立ち、「指導者がいてこそ、多くの人たちが安心してフィットネスに参加できるのです。皆さん、ありがとう」と感謝を述べ、「今回のスローガンであるInspireは、人をやる気にさせるという意味があります。ここに参加した人たちは、まさにInspireです。IDEAには250人のボランティアと150人の講師がいて、IDEAのスタッフたちは1年前からこのコンベンションの企画を練ってきました」と参加者の心一つにしていけます。IDEAでは、子どもの肥満を予防・改善するための研究に対して助成を行っているのですが、その重要性や意義をアピールしたのは、なんとビル・クリントン前大統領です。国の要人である本人がステージに登場するわけもなく、ビデオでメッセージを寄せてくれたのですが、「学校で健

康的な食事をする教育と、フィットネスのレッスンを積極的に行える施策を実現したい。そのためにも、皆さん一緒に頑張りましょう」と述べて、会場のにいる参加者たちは誇らしげな表情でメッセージに聞き入っていました。

クリントン前大統領のメッセージの後には、インストラクター、トレーナー、プログラムディレクターを受賞する『Awards Presentation』が行われました。インストラクターオブザイヤーには、元弁護士で大病を患ったことでフィットネスに目覚め、それが高じてインストラクターとして活躍しているシャリー・アーチャーさんが受賞したのですが、彼女のスピーチが見事でした。家族への感謝を述べたあと、フィットネスやインストラクターの重要性について、自身の体験を通じて力説したのですが、このスピーチによって、会場にいる参加者と受賞者が同化しているように感じられたのです。要するに、受賞者にとって参加者は「私の仲間」であり、参加者にとって受賞者は「私たちの代表」であるという意識の同化を感じたのです。鶴見理事長は「セレモニーに参加することは、指導者としてのモチベーションアップにつながる」といいます。アメリカの指導者たちは、決して恵まれた環境や待遇にありません。しかし、社会的に意義のある仕事をしているんだ、皆これからも頑張っていこうよ、というエール交換の場でもあるわけです。

アメリカは不況に喘ぎ、犯罪に怯え、多人種の軋轢に苦しんでいます。だからこそ、共通の意識や団結力を抛り所にパワーをみなぎらせようとしています。IDEAには、そんなパワーがあふれています。指導者たちのオアシスであり、フィットネスプログラムの源泉として、IDEAはこれからも支持され、豊富な情報を発信していくことでしょう。IDEAコンベンションは、フィットネス業界人にさまざまな感慨をもたらしてくれます。できることなら、一度は訪れるべき場所です。そんなことを改めて実感した、IDEAコンベンションでした。

《IDEAコンベンション/JAFAツアー参加者の声》

「米国のトレンドを把握し、自社の商品開発に役立てることを目的に参加しました。Chalene Johnsonのクラスは、音源とコリオの完成度が非常に高く、指導スキルも最高でした」「ヨアブ、パトリック、スティーブの3人は、最高のプレゼンターでした」「レベッカはステップの女王でさすがです。日本に何度でも来て!」「海外コンベンションは手続きが難しいので、JAFAが代行してくれるIDEAは助かります」「JAFAフォーラムに来ている外国人プレゼンターが一流であることが、IDEAを通してよくわかりました」

右の写真はIDEA主催のウェルカムパーティーでのショット。首に掛けているレイは、デビス会長夫妻の手によるものです。



今回のIDEAコンベンションのスローガン“Inspire”をプリントしたTシャツは、参加者全員に無料で配布されます。ただし、レジストレーションで渡されたバインダーの中の引換券が必要。



エキスポで目を引いた『TRX』。このアイテムもそうでしたが、ピラティスやバイクなど、エキスポの出展ブースを活用したワークショップが開催されており、その合理性には感心しました。



ものの二三分で、次から次においしいモノを作るおじさん。見物人は、その軽快でユニークなトークとともに、振る舞われるサンプルがお目当て。エキスポでお腹が空いたら、このブースへ。



アメリカ人は巨大な物と合理的なことが好きですが、それを象徴的に感じたのがこのブース。大きなバスがそのまま出展ブースとなり、来場者に存在感をアピールしていました。

編集者がキャッチしたIDEAコンベンションのトピックス

前編：クラブ運営の3つのキーワード

インストラクター・トレーナーのキャリアマガジン
NEXT 編集長 岩井智子



Part 3

2008年7月7日～12日、ラスベガスでIDEA2008ワールドコンベンションが開催されました。その模様を2回に渡ってレポートします。第1回目の今回は、プレコンベンションで得た情報をキーワードでご紹介します。

——プレコンベンション

IDEAコンベンションに、プレコンベンションがあるのはご存知でしょうか。例年、各種プログラムのインストラクターコースや、指導者向けマネジメントセミナーが提供されています。今年はインストラクターコースは『ドラムスアライブ』『ストットピラティス』『シュイングルーブサイクリング』『ストーリーラストライズ（ママと子どものプログラム。ママがベビーカーを押してウォーキングするとともに、子どもと一緒にできる筋力・柔軟性のトレーニングが含まれるエクササイズ）』と、『ファンクショナルトレーニング最新スキル』が、それぞれ4～8時間コースとして提供されました。

マネジメントセミナーは、独立起業を目指す人向けの『フィットネスビジネスフォーラム』と、フィットネスディレクター向け『フィットネスマネジメント』の講座が提供され、こちらは座学のみ。今回、このフィットネスディレクター向け講座に参加しました。

セミナーは「どのように全体のフィットネスプログラムの価値を高めるか」「限られた予算の中で、新しいプログラムやエクイップメントを導入する方法」「パーソナルトレーニングのビジネスモデル」などの内容で、運営面のトレンドを垣間見ることができました。そのトレンドを3つのキーワードで紹介したいと思います。

——1つ目のキーワード：プティッククラブ

アメリカではフィットネスの参加率が15%を超え、クラブ同士の競争が激化するにつれて、業態の多様化が進んでいます。今急増している新業態は「キークラブ」と呼ばれる低価格で、24時間利用できるセルフサービスのクラブ。スタジオ大のスペースにマシンが並べられたジムで、メンバーカードが入館用の鍵になっていることから「キークラブ」と呼ばれています。こうした無人化による低価格の旗を振るクラブの対極に位置するのが、この『プティッククラブ』。

プティッククラブは、プログラムやインストラクター・トレーナーの質で差別化しようとするもので、小売業でいえば「ブランドショップ」「セレクトショップ」的な位置づけ。小規模のジム・スタジオタイプで、月会費を基盤にしながらもパーソナルトレーニングや少人数の有料グループレッスン、プログラム別会員（スクール会員のような設定）などを設け、高い客単価を実現していることも特徴になっています。

——2つ目のキーワード：ハイブリッドプロフェッショナル

これは、グループ指導もパーソナル指導もできる人のことを指す言葉。通常、クラブの収益基盤は会費収入ですが、この『ハイブリッドプロフェッショナル』は、その会費収入を安定化させる会員定着に有効なグループエクササイズも担当



左/日本でもお馴染みのシャノン・フェイブル氏のセミナー。新しいプログラムやエクイップメントの導入を限られた予算の中でいかに実現していくか。トレンドの把握の仕方から、クラブの経営や運営にいかにかプラスになるかを伝える企画書や報告書の書き方までを実践的に解説していました。

下/プレコンベンションでのフィットネスディレクター向けマネジメントセミナー。クラブの課題について熱心に質問したり、情報を共有しようとする姿が印象的でした。



しながら、パーソナル指導で会費外収入も高められるということで、クラブにとっては貴重な存在。本人も、グループエクササイズとパーソナルを両方担当することで、自身の収入を効率的かつ効果的に高められることになります。パーソナルもグループも担当できるプロフェッショナルは、知識や指導技術も高く、親しまれやすい人間性を備えている場合が多いので、クラブで提供するソフトのサービスのクオリティを全体的に高めることができるようになるわけです。

——3つ目のキーワード：ホビーインストラクター

これは、アメリカの業界の陰の部分とも言えますが、前述のようなハイブリッドプロフェッショナルが収入や地位を高めている一方で、フリーでグループレッスンだけを担当し、クラブの経営や運営に興味を持たないインストラクターがこう呼ばれています。こうしたインストラクターのフィーは下降気味。エアロビクス系レッスンの1本当たりのフィーは20～25ドルといわれ、セミナーの講師は「レッスンだけで生計を立てていくのは無理」と言い切っていました。「この仕事を生涯の仕事にしようと思うなら、ハイブリッドプロフェッショナルを目指すか、専門性を高めてプログラムのコンサルティングや開発ができるようになることを目指すかの選択をし、そのための勉強をしないとダメ」と。

——インストラクター・トレーナーの教育レベルの高度化

今回のIDEAで全体的に感じたことは、インストラクターの教育レベルが非常に高まっていることです。フィットネスディレクターや起業を目指す人はもちろん、各種ワークショップも自分のレッスンやトレーニングの内容を、とてもロジカルに伝えていることが印象的でした。自分たちが提供していることの価値を、相手が理解できる言葉にして伝える。そうすることで、自らの地位や収入を高めていく。その実現に向けて真摯に学ぼうとするインストラクター・トレーナーの姿がとてもたくましく映りました。

次回はコンベンション本番編をレポートします。